

ALSに負けぬ姿つづる

入山辺出身 作家・谷川さんが闘病記

全身の筋肉が衰える難病・筋萎縮性側索硬化症(ALS)との闘病を続けている松本市入山辺出身の作家・谷川彰英さん(80)は千葉市川が、闘病記『ALS “人生の聖火ランナー”―生きる勇気の波紋』を刊行した。「他己の心」を抱く心境に至った出来事と、生きる勇気を表し続ける姿勢が、全国の人たちに広がっていることを記した。

(小坂 功)

谷川さんの闘病記は 去の闘病記を読み「生4冊目。他分野の著作 ける勇気」を読み取つもあり、ALS宣告後 大分県や山梨県の子の7年間で10冊目とな 供たちとの「命の交る驚異的なペースで執 流」を描いた。これが筆を重ねる。

昨年4月に亡くなつ

つたと自己分析する。

た妻・憲子さんや、過

子供たちからの手

紙、母校・松本深志高 校で令和6年に行つた講演の記録などを載せる。献身的に介護してくれた憲子さんの死去に直面し「このまま死んだ方がいい」と思い 記している。深志高で 結めた半面、会葬御礼 の講演では「ALSの

罹患はとてつもない不幸と言わざるを得ません。しかし、これまで私はこの難病に負けることなく生き抜いてきました」と話した。

教育学者として、筑波大学副学長などを歴任し、同大名誉教授。「生活科」の創設や普及に尽くした。作家としては、全国の地名を題材にした著作もある。読者からの電子メー

ル (antanikawa@kyf.biglobe.ne.jp.) による感想を求めている。「昔ともに学んだ皆さん、この記事を読んだらメールをください。常念に吹く風に勇気づけられます」と話している。

『人生の聖火ランナー』は遊行社刊。税別1800円。



谷川彰英

生きる勇気の波紋

勝間和代 応援メッセージ

最愛の伴侶を失う悲しみを越え、「利他の心」で言葉を紡ぐ谷川先生に 胸が熱くなります。
人生の不条理を越えて放たれる「生きる勇気の波紋」は、困難をしなやかに乗り越えるための底力を私たちに教えてくれます。

刊行された『ALS “人生の聖火

ランナー”―生きる勇気の波紋』